

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

**FREE** 岡山ムーブアップ  
**vol.27**  
AUG 2017



SPECIAL FRONT INTERVIEW

**DJ DARUMA × DJ MAKIDAI**

SPECIAL INTERVIEW **Leola** SPECIAL COLUMN **EXILE TETSUYA**

**OKAYAMA  
MOVE  
UP**

# PKCZ®

## DJ DARUMA×DJ MAKIDAI

待望のアルバムがついにリリース！ エンターテインメントの新ジャンルを創造するPKCZ®の全貌が今、明かされる！

2014年に結成、2016年から本格的に活動を開始したPKCZ®。EXILE HIROの呼びかけにより、DJ MAKIDAI、VERBAL、DJ DARUMAという、90年代のHIPHOPに魅了されたメンバーが集結。ヒト、モノ、コトをMIX(ミックス)し新しい価値を創造するクリエイティブユニットとして活動中。8月にはファーストアルバムもリリース、今後の展開に注目が集まる。



撮影・仲西マティアス



# 言葉にしなくても分かる 世代の共通感覚があるのが強み

## DJ DARUMA

もともと古くからの友人だったというメンバー。グループ結成のきっかけは。

**DJ DARUMA** (以下、**D**)「20年以上前に出会い、HIP HOPがすごく好きな音楽でつながった友達であり、一緒にダンスをやったり、作ったりしていた仲間でもあります。その延長線上にPKCZ<sup>®</sup>があるという感覚なので、今一緒にやっているという事に関しては、違和感とかは全然ないですね」

**DJ MAKIDAI** (以下、**M**)「青春時代というか、一番自分たちが熱く、音楽やダンスに対し夢中になっていた頃からの友人なので、感覚的にすごく分かりあえる事が多い。世代も年齢も同じなので、いろいろなカルチャーに触れ、好きなものが同じだったり、見てきたテレビ番組が同じだったりしているから、感動するポイントが一緒なんですよね」

**D**「逆に嫌だっというポイントも近い。それって、実はすごく重要で、それはなくなっていうポイントが、言葉にしなくても感覚的に分かる。VERBAL君も同い年なので、世代の共通感覚があるのは、強みでもあり大きいのかなと思います」

**M**「メンバーだけでなく、同世代のダンサーやDJなど、共通の知り合いが多いので、なんとなくナチュラルにずっとつながっていたという感じ」

**D**「それがすごくきれいなタイミングで、一緒にやることになったんですよね。これが5年前ならなかったかも知れないし、3年後だったら遅すぎたと思う。僕はもともとやっていた、DEXPISTOLSというDJユニットの活動を一旦休止にするタイミングだったし、MAKIDAIもEXILEのパフォーマーを卒業するタイミングで、そんないろいろなタイミングがきれいにそろった時に、HIROさんから一緒にやったら面白いことができるんじゃないかとアドバイスをいただいたんです」

**M**「自然の流れもあったし、HIROさんが

3人を見て、このメンツで何かをやれば面白い事ができるんじゃないかっていう、その直感を信じてやっていこうと。そういうタイミングが僕らを引き寄せてくれた気がします」

8月2日には、アルバム『360° ChamberZ』(スリーシックスティ・チェンバーズ)をリリース。タイトルに込めた意味は。

**M**「僕らが影響を受けたアーティストで、Wu-Tang Clan(ウータン・クラン)というニューヨークのスタッテンアイランド出身のHIP HOPアーティストがいるんですけど、彼らのアルバムが『Enter the Wu-Tang (36 Chambers)』というタイトルだったんです。僕らはそこに一番色濃く影響を受けたという事もあり、アルバムのタイトルにしました。彼らはHIP HOP集団でもあり、ラップもやるし、他にクリエイティブなことも積極的にやっている。ソコで動いたり、自分たちが着たい服を作って、それを着てミュージックビデオに出たり、PKCZ<sup>®</sup>がやりたいことに、すごくリンクしていることが多く、シンプルにカッコいいなど。僕らも、音楽を軸に、ヒト、モノ、コトをミックスして、PKCZ<sup>®</sup>のメンバーでそれらを一度咀嚼して、自分たちなりに形を変えてクリエイティブな活動をしていきたいと思っている。その上でそれを360°全世界に電波を広く張って、PKCZ<sup>®</sup>のフィルターを通して、クリエイティブな作品を出していこうと。そういう意味も込めて、このタイトルになりました」

**D**「アルバムの制作には2年かかり、その間いろいろなことがありました。1曲1曲作り方も違いますし、とにかく丁寧に仕上げたという感じです。今、現状で自分たちが出せるものの中では、バランスがとれて、すごくいいものができたなと思っています」

アルバムでは、多くの海外アーティストともコラボレーションしている。

**M**「Wu-Tang ClanのMETHOD MAN

(メソッドマン)は、アメリカの90'Sを代表するラッパーなんですけど、その彼とも『INTO THE CIRCLE』という曲と一緒にやっています。ホットミュージックというネタ元があるんですけど、サンプリング許諾もあって、僕らなりにそれ以外の部分をイメージし、ディレクションやプロデュース的な感じで携わった。その上でメンバー同士、意見を出し合い、ブラッシュアップをしていきました。90'Sの今やっているラッパーの中で、誰がいいかと話し合っていた時に、何人が候補はいたんですけど、DARUMAさんが神の一声で、“やるならメソッドマン”と(笑)」

**D**「ダメ元で行くなら、メソッドマンでしょって。誰がOK出してくれるか分からないなら、とにかく一番好きな人にいこうと思っていたので」

**M**「みんな共通で好きな人でしたし、ダメ元でいってみたらOKが出た。そこから作業が始まり、あの楽曲が誕生したわけです。ですから、いきなり座組みがあって、ドーンとスタートしたというより、段階を経て、1つずつ会議を繰り返して、作品を作り上げていったという感じです」

最初から海外を意識してのアルバム作りだったのか。

**D**「そこもHIROさんが、もっと海外との連携を取ったほうがいいとアドバイスをくれて、9割ぐらいアルバムができていた段階で、そこからテコ入れた部分もありました。PKCZ®は海外にも目を向けるべきだと言ってもらったので、試行錯誤し、練り直した結果、さらに厚みのあるものになったと思います」

7月には、ベルギーで行われた世界屈指のダンスミュージックのフェス『Tomorrowland』に出演。

**D**「ある程度の結果は得られたのかなって感じですね。行ってみるまでは、本当にどうなるか全く分からなかったのが不安でした。海外だと僕らは無名の新人アー

ティストなので、単に音楽の力だけで勝負しなければならない。果たしてそれがどこまで通用するのかっていうのが試せたと思います。僕らがプレイをしていたのは、室内だったので、雨が降ってきたことで、お客さんが入った部分もありました。でも現地にいた友達のYellow Clawというアーティストに、“雨が降ってきたというラッキーな部分はあるかもしれないけど、そこで音楽が悪かったら、晴れた時に出て行っちゃおうと思う。でもお客さんたちは残って、きちんと最後まで盛り上がりを作れたっていうのは、DJが良かったっていうことだと思うよ”ってってもらい、それもすごく自信につながりました。自分たちが思っている通りになったところもあるし、ダメなところも逆に明確に理解でき、僕自身すごくいい経験になりました」

**M**「ヨーロッパでしたし、アメリカとも日本ともアジアとも違い、その国々で盛り上がりやすい、受け入れられやすい曲調やジャンルがあるとは思っていた。それも踏まえてDJプレイで表現する上で、どうすればうまく盛り込めるかというのを3人でセッションしました。また、プラスアルファの部分として、衣装をハッピーにするなど、海外の人が思う日本っぽさを取り入れたほか、ゲームやアニメ、映画など、どの程度知られているか分かりませんでしたが、そういうのをワイドにとらえてやってみるなどの工夫もした。その結果、うまくいった事もありましたし、もちろん改善点も全然ありましたが、とにかくものすごくいい経験になったのは間違いないですね」

**D**「ちゃんと海外でこのまま経験を積んでいけば、まったく歯がたたないっていうことはないなと。日本以外のところで、DJとして勝負していけるっていう自信にはつながりました」

『Tomorrowland』では、日本から駆け付けたファンが国旗を掲げ応援。それがすごく心強かったという。

# PKCZ®と一緒にやると 面白いよねっていう存在になりたい

DJ MAKIDAI



# 目の前にある1つ1つの事を 積み重ねていく以外に夢をかなえる方法はない

**D**「海外に行って、お客さんたちが国旗を掲げて自分たちの国のアーティストをサポートしていただくという経験は、本当にめちゃくちゃ心強いというか、あの支えられているっていう感じは初めて経験するものでしたね」

**M**「国旗を見ながらというのは、普段とまた違う見え方ですごくうれしかった。またそれが争いではなくて、自分たちの国のDJがやるときに、盛り上がるという感じはすごくピースで、そういうことで世界がつながっていくのは、本当にいいことだなと思いました。その中で、やはり自分が育ったところの国旗が上がっていたのはすごく感動しましたね」

**D**「国旗を振ってくれた日本の方もすごく感動したと言ってくれて、それがすごいありがたいなというか、一生懸命にやった甲斐があったという気持ちになりました。Tomorrowlandってお客さんで行くのは結構ハードルが高いと思うんです。ベルギー

の草原の中という決して行きやすくない場所で、いろいろ見たいアーティストもいたでしょうに、PKCZ®のステージに来てくれた上に、感動したって言ってもらったのは、こちらも逆に本当にありがたいというか、胸が熱くなりました」

岡山に行ったことは？

**D**「何回もお邪魔したことあります。まず駅降りたところの桃太郎が印象的ですよ。あとやっぱり、僕自身洋服もやっているんで、デニム工場のイメージはすごいです。あと、橋を渡ってすぐに香川があるということで、うどんも美味しかったとか。クラブシーンは、基本的にすごい盛り上がっているイメージ。お客さんもすごくたくさん集まってくれますし、若者の熱気は基本的にとてもあるなという感じがします」

**M**「自分はまだ行ったことはないです。でもDARUMAさんもそうですし、DJのJOMMYという昔からの友達で、PKCZ®と

して一緒にイベントやるときに参加してくれる人から、行った時の話を聞いたり、送ってもらった写真を見たりすると、クラブがすごく盛り上がって、いい感じが伝わってくる。なので近いうちにぜひ行って岡山のみなさんの前でプレイしてみたいですね」

夢をかなえるために頑張っている人にメッセージをお願いします。

**D**「とにかく、夢に向かっていくのは日常の積み重ねなので、1個1個目の前にあることをまぎちんと一生懸命やっていくことが大切だと思います。勉強を頑張るとか、アルバイトを頑張るとか、そういう今日を頑張ることを積み重ねていくことがすごく重要だと思います。それをした上で、ルーティーンにならないように、どういふふうに、自分の人生を進めていくかという目標を、すごく近いところから決めてみる。1年後とか3年後とか。それをやりながら、1個1個頑張っていくつつ、ステップアップを作っていくようにしていくことで、確

実に前に進んでいくと思います。漠然と夢を見てどうしたらいいかわからないというのはすごく分かるんですけど、日常の積み重ねを一生懸命やることしか方法はない。それは自分自身の中に確信があるので、日々の小さなことを大切にしたいと僕は思います。僕自身、今身の回りに起こっていることって、本当にとんでもないレベルのことで、今は漠然とした夢をみているというよりは、夢が叶っていている最中なので、だからこそ、1つ1つ確実にやっていきたい。ここ何年間かは、PKCZ®にしっ



かり集中して、どこまで盛り上げられるかというのを、目標としてやっていこうと思っています」

**M**「夢を思い描いた時に、何でもかんでも一人でやろうとしないで、自分の夢を応援してくれる人と分かちあうのも大事だと思います。そういう人の数が多いほど、その夢に近づけるといいますし、逆に人の夢や考えを聞くことも、必要じゃないかと。一見、遠回りしているようなんだけど、実はそういう事が自分の夢を叶えることにもつながっていくと思う。僕自身は、このPKCZ®というグループを、海外を含めより広い視野でやっていく中で、一人



でも多くの人に PKCZ® と一緒にやってよかったと言ってもらえるようにしていきたい。PKCZ® とやるとなんか面白いねとか、そういう存在になっていけたらいいかなって。それには、自分たちだけでは考えられない事も、人と混ざったり、アイデアを出し合ったりする事で、パワーアップしていくことができると思うので、そういう人たちとも積極的に交わっていければと思います」

**D** 「僕らは陰謀論が好きで (笑)、誰が世界を牛耳っているのかとか、よくそういう見えない力のことを話したりするんですけど、最大限話を広げて、結果“そんな事

より、今日のライブ頑張ろう”みたいな結論になる (笑)」

**M** 「そう、広がり放題広げて、“よし、じゃ、今日頑張ろう”って (笑)。その好奇心は失いたくないけど、この年月をかけて今の自分がいて、それって積み重ねてきたことの結果なんですよ。1個クリアしたら、何か見えてきて、それをクリアしてって。実際に通ってきたところが、履歴になっていくと思うので、1個ずつ頑張ろうって。急がば回れじゃないですけど、それが一番近道だと思います」

### 1st ALBUM『360° ChamberZ』がリリース

クリエイティブ・ユニット＝PKCZ® (DJ MAKIDAI / VERBAL / DJ DARUMA) が初の ALBUM をリリース。メンバーのバックボーンに根ざしたあらゆる DANCE MUSIC を MIX した 1st ALBUM 『360° ChamberZ』 (スリーシックスティ・チェンバーズ) は、CD (全 11 曲 + 特典曲) + DVD (MV 全 4 曲) の 2 枚組で LDH MUSIC よりリリース。LDH から、EXILE THE SECOND・三代目 J Soul Brothers、GENERATIONS を始め、海外からもレジェンド、METHOD MAN (Wu-Tang Clan)、Afrojack ら総勢 13 組の豪華アーティストが集結。

【Featuring】EXILE THE SECOND / 三代目 J Soul Brothers / GENERATIONS / EXILE SHOKICHI / 登坂広臣 / CRAZYBOY / DOBERMAN INFINITY / Crystal Kay / MIGHTY CROWN / ANARCHY / SWAY / AFROJACK / METHOD MAN (Wu-Tang Clan)

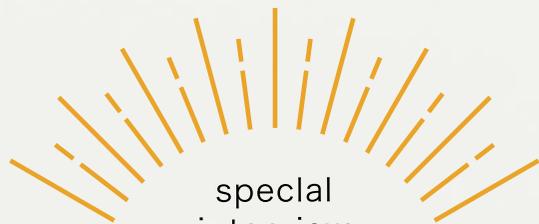


**PRESENT** PKCZ® から読者 3 名にサイン色紙をプレゼント!  
応募方法 [P.26] にて。

okayama move up 検索

# Leola

*Hello! My name is Leola.*



special  
interview

7.12待望の1st Album  
『Hello! My name is Leola.』をリリースした  
今、注目の歌手Leolaさんにインタビュー。



―― 7月12日にLeolaさん初の1st Album『Hello! My name is Leola.』がリリースされましたが、このアルバムで特に思い入れのある楽曲はありますか？

Leola (以下、L): アルバムの一番最後に、ずっとアルバムに入れたいと思っていたアルバムタイトルにリンクさせている『Hello, My name is...』という楽曲があるのですが、今回アルバムを制作する中で、この曲を新しく作ろうということになってずっと一人で作っていたんですけど、曲への思いが強すぎてうまく形にならなかったんです。そんな時期に、4th Single『コイセヨワタシ。』のMVとアルバムのジャケットをハワイで撮影させていただいたのですが、その撮影の時にちょうどデビュー1周年を迎えて、現地の方がお祝いでウクレレをプレゼントしてくださったんです。日本に帰ってからすぐ、ハワイで感じた空気だったり、これからどんな風に歌っていきたいか、どんなアーティストになりたいか、どんな人になりたいかなどを改めて考えた時に、帰国した次の日に「ウクレレで作ろう!」と決めて、作った楽曲です。デビューから一年活動してきて、何よりもファンの方がいてくださることのありがたみをすごく感じています。

Aloha!

大きく踏み出

やっぱりデビュー前はなかなかどの場所に行っても私を待っている人の存在は少なかったんですけど、デビューしてから改めて各地に行ったときに、誰かが待っていてくれることがすごく嬉しかったんです。なので、遠くにいるファンの皆さんだったり友達に、「会えない時間も心配しないでね」、「いつも繋がっているよ」、「皆さんの声も届いているよ」、「私は皆さんの近くにいますよ」という気持ちを伝えたくてこの曲を作りました。この楽曲は、ストレートな私の心のメッセージが詰まっていますね。

——— Leolaさんはハワイ語で“太陽の声”という名前の由来があり、ファッションなどもハワイや海をイメージさせるように思うのですが、ファッションや好きなものへのこだわりはあるのでしょうか？

L: もともと、シンプルなファッションが好きでそれはいまでも変わらない私の芯にある部分なので、以前はあまり柄物を取り入れなかったんですけどデビューをしてから、ポイントポイントで柄物を取り入れるようになりましてね。その時のシチュエーションだったり、これから行く場所だったり、会う人だったりに合わせてコーディネー



トしたりしているんですけど、柄物を着ると何かスイッチを入れてくれるような気がして、柄物を着るようになりました。柄は、エスニックだったりアジアな感じだったり、少くせのある柄を選んで個性を出せるようにしています。その時の気分でファッションも変えたりすることがあるので、たまにTシャツとデニムでシンプルに戻って気持ちをリセットしたりとか、ファッションは心とリンクしているなと思う部分はありますね。

——— 6月には、4th Single『コイセヨワタシ。/Mr.Right』のリリースイベントで来岡されたLeolaさんですが、岡山はどんなイメージでしたか？

L: ライヴで岡山に来るのは初めてだったんですけど、小さいころに家族旅行で1回倉敷に行ったことがあって、子供ながらに美観地区の景色があまりにも綺麗で感動したのを覚えていますし、その時の旅行がすごく楽しかったので印象に残っています。いつか絶対また来たいと思っていた場所でもありましたし、その時も漠然ではあったんですけど“歌手になりたい”という夢はあったので、今回こうやってライヴで来ることができてすごく嬉しく思っています。

——— Leolaさんが歌手の夢を持ち始めたきっかけを教えてください。

L: 歌が大好きな家族ということもあって、ドライブに行くときもカーステレオで音楽をかけてみんなが歌いながらドライブに行くような家族でした。私も自然に歌を好きになっていましたし、歌うことに全然抵抗もなかったです。小さいながらに大好きな歌をずっと歌っていられたらどんなに楽しいだろう、幸せだろうと思っていました。明確にステージに立つことを意識し始めたのは、中学一年生の時に初めて家族以外の身内の前で歌を歌うことがあって、ちょっとしたステージに立って歌ったときに、誰



release

『Hello! My name is Leola.』  
7.12 Release!! Leola 1st Album

ハワイ語で“leo”声、“la”太陽”という名前の由来通り、太陽のような歌声で聴く人の心を癒し、魅了するLeola 待望の1st Album!!

■初回生産限定盤 A (CD+DVD)	AICL-3360~3361	¥3,500 (tax in)
■初回生産限定盤 B (CD+BD)	AICL-3362~3363	¥4,200 (tax in)
■通常盤 (CD)	AICL-3364	¥2,800 (tax in)



present

読者プレゼント  
OKAYAMA MOVE UP vol.27

今回インタビューにご登場いただいた、Leolaさんの直筆サイン入り色紙を3名様プレゼント!!  
詳しい応募方法は、OKAYAMA MOVE UP 公式 SNS をチェック!

OKAYAMA MOVE UP公式Instagram & Twitterにて応募詳細配信!!  
Instagram / okayamamoveup Twitter / @okayamamoveup

【応募期間】2017年8月9日~8月31日まで



# す 事 っ て す ぐ く 大 切 だ と 思 い ま し た !



かの前でマイクを持って歌うことが楽しいなと思ったり、単純に“上手だね”と褒められたことが嬉しかったのが最初の大きなきっかけですね。中学、高校の頃は、具体的にプロへのステップを踏み出せた訳ではなくて、出身が東京ではないので“歌手”は遠い存在だと思っていましたし、その頃はただ友達とバンドを組んだりして音楽を楽しんでいましたね。実際にオーディションに挑戦したのは、上京してからですね。上京したのが、進学のためだったんですけど、ずっとチャンスがあればなどは常に思っていました。だけどやっぱり上京してからも、“大きな一歩”というのはなかなか踏み出せなかったんです。プロフィールを送ったり、デモテープを送ったりはしていたんですけど、大きなオーディションに挑戦してみようとかそこまではなかなかできなくて、上京して二年ほど経ったときに、“このままじゃダメだ”と思って挑戦したオーディションがきっかけで今の結果につながっているの、やっぱり大きく踏み出すことってすごく大事ななと思いました。

——— Leolaさんの今後の夢を教えてください。



L: まずはより多くの方に私のことを知って頂いて、私の歌を聴いていただくということがひとつですし、ライヴをたくさんしていつか目標でもある武道館でワンマンライヴをしたいというのも大きな夢です。さらにその先では、『Leola』という名前のルーツにもなっているハワイでライヴをしたいですね。

——— 読者の皆さんにメッセージをお願いします。

L: 私が日々、生活していても大切だなと思うのが“笑顔”なんです。笑顔が素敵じゃない人なんていないと思っていて、ある時期からつらい時こそ笑顔を作ろうというか、笑顔になれるように気持ちを持っていこうというのを意識し始めました。笑顔でいるようにしていたら笑顔の人が寄ってくるし、笑顔で伝染していくと本当に感じるようになってきたので、私ももし辛いことがあってもいつも笑顔でいるので、皆さんにも笑顔を大切にしてもらって“笑顔な日々”と一緒に増やしていきたいです。

# Rise!

## OKAYAMA MOVE UP 2017

OKAYAMA MOVE UPは更なる活動の浸透と広がりを実現するために、より具体的かつ大胆に様々なジャンルの“Rise!～上昇～”をバックアップしていきます。Rise!の先には必ず人間の生きる意味、生まれてきた意味が見えてくると確信しております。

### STREET

ダンス・BMXなど様々なストリートカルチャーを横断的に融合させ岡山のストリートカルチャーをより盛り上げます。

01 金島 総一郎

interview

02 西村 海晴

interview

### ATHLETE

野球・サッカーなど様々なスポーツに携わる岡山にゆかりある人々をピックアップし、取り上げていきます。

03 安部 孝駿

interview

### NEXTER

岡山で、もしくは岡山を拠点として活躍する企業や企業人にスポットを当て、認知を広めていきます。

04 あかり 歯科

interview

### AIRTIST

音楽・文化・美容など様々な業界で活躍する人々をピックアップし、考え方、生き方などを発信していきます。

05 安井 秀和

interview

06 D\_29(DAIKI)

interview



01  
interview

Rise!  
OKAYAMA MOVE UP STREET

FLY  
WITH ME

## 10歳の時にアグレッシブインラインスケートと出会い、 全て独学でプロ認定まで上り詰めた彼自身のスケート人生とは。

――アグレッシブインラインスケートをはじめたきっかけは何だったんでしょうか？

金島 総一郎（以下、金）：今年でアグレッシブインラインスケートを始めて21年目になるんですけど、小さい頃に家の周りで友達とインラインスケートのレースをしたりして遊ぶことが多かったんです。それがきっかけでどこへ行くにもインラインスケートを持って出かけていました。10歳の時に、笠岡にある『太陽の広場』という公園に行ったんですけど、そこでアグレッシブインラインスケートをやっている人達が出て、カッコいいと思ってその場で始めました。その時持っていたのがおもちゃのインラインスケートだったので、このままじゃこの競技ができないと知って、その日のうちに競技用のインラインスケートを買に行きましたね。

――アグレッシブインラインスケートの魅力は何なのでしょう？

金：普段味わえないようなスリルがある所です。ジャンプ台を飛んだり、パイプの上を滑ったりというのは普通に生活していて絶対味わうことができない感覚ですからね。それに自分にとって難しい技だったり、怖い技っていうのはみんなやりたくないと思うんですけど、それにトライして出来た時の気持ち良さだったり、大会で大技が決まった時にすごい歓声が湧いたりした時はすごく気持ちいいのでそういうところが魅力です。最初は怖いんですけど、やっていくうちに恐怖心よりも楽しさが上回っていくので、ステップアップすればするほど、楽しさがどんどん増すスポーツです。もともとアメリカの“遊び”から生まれたストリートカルチャーなので、ファッションも自分の好みでこだわられるところも好きですね。

――様々な大会に出場されている金島さんですが、記憶に残っている大会はありますか？

何事もポジティブに考えて続ければ  
必ず結果はついてくる！

金：僕が高校3年生の時に初めて世界大会で優勝した、マレーシアで開催された“X-Games”です。これがきっかけとなって僕のインラインスケート人生が一気に変わりました。その大会と一緒に出場していた選手の中にアメリカのChris Haffeyっていう選手がいたんですけど、当時、彼が色々な大会を総なめにしていて、世界ランキング一位だったんですけど、この大会で初めて彼に勝って優勝することができました。本当に嬉しかったです。大会が終わった後、彼に“お前はアメリカに来てもっと上にいけるよ”と声をかけてもらったのがきっかけで、世界中から大会に出て欲しいというオファーが増えました。そこから世界中のスケートの仲間が増えて、サポートしてくれるスポンサーが変わったりして、この大会がきっかけで自分の視野も広がったという感じがしますね。

――数々の大きな大会に出場されたリプロとして活躍されていますが、挫折したことはあったんでしょうか？

金：挫折したことは、ないです！痛かったり悔しい思いはたくさんしましたが一回も辞めたいと思ったことはないですね。インラインスケートが本当に好きなんだと思います。普段、僕は基本的にスケートの調子が良いとか悪いとかはあまり考えないようにしています。調子が悪いと思ってスケートしていると、その日全部調子が悪くなってしまふような気がするし、楽しくないですからね。技が上手く決まらなくても、次は決まるってポジティブに考えるようにしています。練習の時とかでも、挫折してももうやりたくないって思ったことはないですね。

――普段子供たちにもアグレッシブインラインスケートを教えられていますか、子供たちが“挫折”しそうな時はどんな声をかけられているんでしょうか？

金：例えば、Aという技をやっていてその技が全然出来なくて落ち込んでいたら、僕は無理してAという技をやり続けなくてもいいと思っているので、ちょっと息抜きにBという技だったりCという技をやってみてから、またAに戻ってくればいよと伝えるようにしています。一つの技が出来ないからその技ばかり出来るまでやり続けるのもいいんですけど、出来ない時間が続いて自分の滑りをネガティブに考え出したら、“技も出来ないしスケートが楽しくない”に繋がると思うので息抜きに違う技をやってから戻ってくればいいんじゃないかなと思います。辛いことも何か楽しく考えられるようなやり方でやれば色々出来るようになるんじゃないかなと思います。

――今後の夢を教えてください。

金：やっぱりインラインスケートの普及ですね。今以上にインラインスケートをたくさんの人に知ってもらって、スケート人口が増えて、海外に出て活躍するようなインラインスケーターが増えたら嬉しいです。インラインスケートがもっと普及するために、僕も出来ることはどんどんやっていきたいです。

――夢を追いかけている人たちにメッセージをお願いします。

金：何でも続けることってすごく難しいことだし、大会で結果を残すのも難しいことだと思うけど、やっぱり自分の気持ち一つで良くも悪くもどっちにも変わっていくと思うから、何事もポジティブに考えてやり続けていたら絶対結果はついてくるので何でもプラスに考えながら頑張ってください。怖いからやらないとか危ないからやらないじゃなくて、とりあえず何でもやってみての方が良いと思います。あの時やるとけばよかったって思ったときには、もう出来ないかもしれないから“やらずの後悔よりやって後悔”の精神で何事も恐れずに挑戦してほしいです。

# 金島 総一郎

アグレッシブインラインスケート世界一位



### Profile

金島 総一郎 Soichiro kanashima  
1986年12月5日生まれ 岡山県出身  
アグレッシブインラインスケート国際プロ選手。  
中学2年生の頃、アマチュア世界大会の「ASA Amateur Championships USA 2000 Street」にてアメリカ認定のプロ資格取得。  
プロ転身後2016年までに日本大会、世界大会合わせ、合計16ものタイトルを取る。  
世界ランキング、日本ランキング共に1位。  
またEXILE LIVE TOUR 2013「EXILE PRIDE」、おかざんといっしょスペシャルステージなどにも出演、多方面で活躍中。

### 【戦歴】

- 2000年 AJIA Championships 2000 Street 優勝(全国大会)
- 2000年 B-3 Session 2000 優勝(全国大会)
- 2000年 ASA Amateur Championships USA 2000 Street 6位(アマチュア世界大会)(プロ資格取得)
- 2000年 Japfa Final 2000 Street 優勝(全国大会)
- 2000年 Junior X Games 2000 Vert 準優勝(世界大会)
- 2000年 Junior X Games 2000 Vert Best Trick 優勝(世界大会)
- 2000年 X Games Asia 2000 Street 3位(世界大会)
- 2001年 AJIA Championships 2001 Street 優勝(全国大会)
- 2001年 Core Extreme Summer Games 2001 Street 準優勝(全国大会)
- 2002年 AIAA Tour 2002 Tokyo Street 優勝(全国大会)
- 2002年 AIAA Final 2002 Street 3位(世界大会)
- 2002年 AJIA Championships 2002 Pro Street 準優勝(全国大会)
- 2003年 X Games Asia 2003 Park 4位(世界大会)
- 2004年 X Games China 2004 Park 優勝(世界大会)
- 2004年 X Games Asia 2004 Park 優勝(世界大会)
- 2005年 NOTHING ELSE MATTER 6 Curve Expert 優勝(全国大会)
- 2005年 NOTHING ELSE MATTER 6 Kinkrail Section 3位(全国大会)
- 2006年 Uraiken 10 Street 優勝(全国大会)
- 2006年 X Game Asia Best Trick 3位(世界大会)
- 2006年 X Game Asia Park 優勝(世界大会)
- 2006年 HOEDOWN 10th 4位(世界大会)
- 2006年 LG World Championship 4位(世界大会)
- 2007年 X Game Asia Park 優勝(世界大会)
- 2007年 HOEDOWN 11th 3位(世界大会)
- 2007年 LG World Championship 9位(世界大会)
- 2008年 X Games Asia Park 3位(世界大会)
- 2009年 X Games Asia Park 準優勝(世界大会)
- 2009年 Chuncheon World Contest Park 準優勝(世界大会)
- 2009年 Chuncheon World Contest High Air 準優勝(世界大会)
- 2009年 L.A. All Day Finals in Los Angeles 2009 Best Trick 優勝(世界大会)
- 2010年 Chaz sands invitational Holland 3位(世界大会)
- 2010年 BitterColdShowDown Best Trick 5位(世界大会)
- 2011年 X Games Asia Park 3位(世界大会)
- 2012年 X Games Asia Park 準優勝(世界大会)
- 2012年 Gold Style Contest 優勝(全国大会)
- 2013年 X Games Asia Park 優勝(世界大会)
- 2013年 Gold Style Contest 準優勝(全国大会)
- 2014年 X Games Asia Park 準優勝(世界大会)
- 2014年 Gold Style Contest 優勝(全国大会)
- 2015年 Gold Style Contest 優勝(全国大会)
- 2016年 Loskilde Festival Contest 3位(世界大会)
- 2016年 Gold Style Contest 優勝(全国大会)
- 2016年 Chuncheon World Contest 3位(世界大会)
- 2016年 Blading Cup 3位(世界大会)

02  
interview

Rise!  
OKAYAMA MOVE UP STREET

岡山でランニングバイクを広めた第一人者であり、日本一のランバイクレーサー海晴くんの父親である西村弘さんに今後のランバイクや夢についてインタビュー。



家族全員で取り組めるのが  
ランバイクの魅力です！

ランバイク世界1位 スーパー2歳児

# 西村 海晴

-かいせい-

——アメリカ発祥といわれているランニングバイク（以下、ランバイク）ですが、日本や岡山のランバイク文化はどうでしょうか。

西村弘（以下、西）：2009年にアメリカから日本に入ってきた乗り物で、日本では最近になってようやくレースの認知度も増えてきました。まだまだ新しいスポーツとして認められていない部分もあって、特に岡山は田舎の方で競技人口も少ないですけど徐々に僕らの活動が根付いてきて、ここ最近岡山でもランバイクが知られてきたように感じます。

——岡山でランバイクを始めたきっかけを教えてください。

西：近所の子がたまたま乗っていて自転車で乗れるようになるので教えてもらい『じゃあ、買ってみようか』となり、娘に購入したのがきっかけでランバイクという物を知りました。当時は、乗っている人も少なかったんで、周りからは何やってるんだろ？くらいに見られていました。娘がやりはじめて、県外のレー



スに行くようになり岡山にはレースがないことを知り、ないなら自分たちで作ろうとはじめたのがこの活動のきっかけです。2014年から“MOMOTARO RIDERS CUP”というレースを岡山ドームで開催し、認知度は伸びたのですが、どうしても県外の強い子たちばかりが集まりだして、レース自体が大きくなりすぎてしまいました。それ自体は良い事ですが、初心者の子供たちが参加し辛くなってしまいました。これではいけないという思いから2016年に“MOMOTARO STEP UP CHALLENGE”(以下、モモチャレ)という岡山県内の子供たちが優先して参加できるレースをはじめました。参加者全員が決勝戦で走れて、全員が表彰されるレースです。モモチャレをやりはじめてから岡山での認知度は、一気に上がり、全国でも岡山すごいねって言われるようになりました。

——ランバイクの魅力を教えてください。

西：家族が一つになって取組める所が1番の魅力ですね。ランバイク自体は、バランス感覚も養われるので、自転車に早い時期から乗れるようになるのは早い子で2・3歳で自転車に乗れた子もいました。また、足で蹴って進むので走るのも速くなります。

——ランバイクを通して海晴くんの成長やは

じめてよかったと思うことは何ですか。

西：生まれて間もない頃からレース会場など大人数の中に連れて行っていたのでレース会場に行っても人見知りがないですし、人懐っこい性格になったのは、いい事だと思います。ランバイクをする事で、普段から練習をすることで体力も同い年の子供たちに比べるとあるほうなのかなと感じます。2歳ですがレースの時はライバルとして競い合って、普段では友達と一緒に遊んだりするような友達も岡山や他県にも出来たのはすごいことだしランバイクをしていなければ出会うことがなかったと思うと本当に貴重な体験ができていると思います。



——海晴くんがランバイクをしてから苦労したことや大変だったことはありますか。

西：やっぱり、2歳児なので100%コントロール出来ないっていうのはありますね。今まで30回くらいレースに出場してきたんですけど、直前で走らなくなりそうになったこともあります。会場ごとの雰囲気や天候によって環境が違いテンションがすぐ下がってしまったり、そんな時は好きなおもちゃの名前や、食べることが好きなので好きな食べ物の名前をチラつかせて機嫌を取ったりしています(笑)

——練習はどのようにしていますか。

西：毎日、少しでもストライダーに乗るよう

にしています。練習という形で毎日乗るのではなく、犬の散歩と一緒に行く時に乗ったり。家の中では、本人はただ遊んでるっていう感覚なんですけど実は練習になっているような“トランポリン”や“けんけんぱ”など遊びながらの練習をさせています。

——日本1位になった経緯を教えてください。

西：初めて全国レースで優勝したのが今年の5月に静岡で開催された“全日本ランバイク選手権シリーズ”というレースで、月齢的にも9月生まれなのでちょっと不利だと思っていて表彰台に登れたらいいくらいでした。正直、優勝すると思っていなかったんですが、レースの前の週くらいから急に調子も良くなってきて良い結果は出るだろうと思いい、それに向けて家族みんながやるぞ！っていうのを海晴なりに感じて分かってくれたのかなと思いきり嬉しかったです。

——今後、岡山でランバイクを広めるために必要なこと、夢を聞かせてください。

西：まだ、完璧に広まってるわけではないので、もっと身近にランバイクに触れられる機会を増やしていきたいです。練習場所も少ないので、この先の子供たちがどこでもランバイクに乗れるような環境を作っていきたいです。レース自体も広めていきたいんですけど、環境作りを1番やりたい、やらなきゃいけないことだと思ってます。そして、ランバイクを知って応援してくださり、協力してくれる方が増えて子供たちの様々な可能性をランバイクを通して広げていくことが夢です。



——今後ランバイクを始めたい人、子供たちの未来について想いを聞かせて下さい。

西：今まで2歳から始められる競技ってなかったと思うんですけど、小さい頃から家族と一緒にレースに向けて練習しようとか、一つの取り組みとして家族全員で出来るのがランバイクの魅力だと思っています。レースに行くにしても県外のレースなら家族旅行のような感覚で行けるので気軽にはじめられると思います。そのためのきっかけ作りが岡山からできたらいいですし、ランバイクをカルチャーとして根付かせていかなきゃダメだと思っています。

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)



岡山から2歳の世界王者が誕生!!

【2017 Strider World Championship】

世界制覇に臨んだ全世界レース

7月22日アメリカユタ州で行われた2017 Strider World Championshipに出場。岡山からは初めての世界への挑戦。圧倒的な速さで見事優勝し2歳の世界王者が誕生した。



Profile

西村 海晴 Kaisel Nishimura

2014年9月5日生 (2歳11ヶ月) 岡山県出身

0歳の頃からおもちゃのひとつとしてランバイクを始める。遊びの感覚でどんどんと速くなり数々のレースにて優勝。今年の6月には国内最大規模のレース“STRIDER CUP”大阪ラウンドにて優勝し、実質日本一位となった。

03  
interview

Rise!  
OKAYAMA MOVE UP ATHLETE

練習拠点を地元岡山に移し、今年3度目の世界陸上に挑戦した彼の更なる夢とは。

自分の夢に向けて、  
一つひとつの目標を超えて行く!!

デサントTC所属 400mハードラー

# 安部 孝駿

——今年の1月から練習拠点を岡山においたのはどうですか。

安：社会人になってからは、練習メニューの指導を受けていたコーチが順天堂大学（千葉県）にいたので社会人1年目から去年の秋くらいまでは、そこで練習をしていました。社会人になって環境の変化があり思うようにうまくいかない時やケガもあって本来の走りが出来なくなってしまいました。昨年（2016年）は、リオオリンピックの年だったんですけど、出場できなくて今後どうすることが自分にとって最適な方法だろうと考え、岡山に帰ってくることを決めました。現在は、高校の時の恩師に指導を受けているんですが、恩師と一緒に取り組みたいと思ったのが岡山に拠点を移した1番の決め手です。岡山に帰ってきて、落ち着いて練習ができて陸上の面ではすごく充実しています。ON・OFFの切り替えもできるようになり以前は24時間陸上の事しか考えられないような環境に一人であることが普通だったんですが岡山に帰ってきて家族や友達という時間が自然と増えてその時はリラックスもでき、練習の時は陸上に集中という切り替えが自然と出来ているのでそれが良いのかなと思います。

——プランクや挫折で陸上をやめたいと思ったことはありますか。

安：もちろん、何回もありますね。オリンピックに出場できなかった時と社会人になって3年間結果が出なかった時です。プロ意識をもって競技をしているので実績が残せない選手はいつまでもサポートしてもらえないので、その頃はすごく辛い時期でした。このまま結果が出ないなら辞めないといけないと思っていて、オリンピックに出場できなかったことはすごく大きな事で引退も考えました。そんな時に、家族や周りの方にサポートしてもらってまた、頑張ろうと思えました。

——世界を視野に入れはじめたのはいつくらいですか。

安：常に世界と戦うのを目標にやっています。学生の頃は世界ジュニアで2位になり良い成績が残せました。世界陸上は今年で3回目の出場になります。過去2回予選落ちが続いて、世界と戦えていないと壁を感じたのですが、今年はずっと練習も出て、世界で戦うイメージも自分なりに出来ていて、以前の自分よりは世界を身近に感じられるようになりました。

——陸上競技（以下、陸上）を始めたきっかけはなんですか。

安部 孝駿（以下、安）：父親が中学校の教員で陸上部の顧問をしていて、小さい頃から休みの日に陸上の試合や練習に連れて行ってもらっていました。自然と陸上に触れるようになっていて、気付いたら陸上をしていた感じです。本格的に陸上をはじめたのは、中学生の時で陸上競技部に所属して最初は長距離をしていたんですけど楽しくなかったので中学1年の夏あたりから短距離に変更しました。中学生の頃は、110m ハードルをしていたんですけど、高校に入学して400m ハードル（以下、400mH）をしていた先輩に憧れて自分もこんな風になりたいと思い400mHをはじめました。

——陸上で就職して続けていこうと決めたのはいつですか。

安：僕は陸上を出来るところまでやりたいという思いがあって、競技を続けるには年齢も制限がある競技なのでいつか引退する時が来るんですけど、どこまで出来るのか試したいと思って周りが就職活動をしている中、練習を続けて大学4年生の時に世界陸上に出場でき、実績を残すことが出来たので社会人になっても競技を続けられるようになりました。大学に入学した時からずっと自分の中では卒業しても陸上を続けていこうかなと思ってはいたんですけど、思っているだけではダメで実績がないと企業も採用はしてくれないので、就職活動のつもりで陸上をしていました。大学時代に、コーチがいなくて知り合いのコーチに連絡を取って練習メニューの相談をしていました。そのコーチに卒業しても競技を続けたい事を相談して、その方が今の企業でもともと競技をさせていたので、話をしてくださり入社することが出来ました。社会人になってから、企業の名前を背負って走っているという責任もあるので学生の頃には感じてなかったプレッシャーはありますね。

世界で戦う事もそうですが国内の試合で勝つこともすごく難しいことで、どの選手も日本選手権に照準を合わせてくるので絶対日本選手権で優勝したいと思ってやってきました。今年の6月に大阪で開催された日本選手権では400mHで初優勝できました。今までは、3位とかだったので優勝した時の気分は全然違いました。今まで一人でやっているという意識が強かったんですけど、岡山に帰ってきているんな方にサポートしてもらってここまで来れたと感じることができ試合が終わって家族やサポート、応援してくれた人に出会ったときは感動しましたし、なにより周りの人が自分の優勝を喜んでくれた事が嬉しかったです。

——陸上をするうえで大切にしていることはありますか。

安：子供たちにかっこいいと思ってもらったり、こんな選手になりたいとか、自分もそういうきっかけで陸上をはじめたので夢を与えるような存在になれればいいなと思っていて、その気持ちは大切にしています。

——長身（192cm）の安部さんですが、得したことはありますか。

安：ハードル競技は、身長に関係なくハードルの高さは同じなので身長が高いほうが軽く越えられたりはあるかもしれないですね。ハードル間の歩数も決まっているので有利になると思います。身長が大きい分、体をつまく使いこなすのが難しい部分もありますがハードルを飛び越えるのと間の決められた歩数で走る部分ではすご

く得をしていると思います。400mHは、世界のファイナリストも185cm前後の人が多くて自分は少し大きい方だと思います。

——安部さんにとって陸上はどんな存在ですか。

安：今は、趣味という感じではやっていないですし、もちろん楽しい事ばかりではなく、辛いことの方が多くて陸上を通していろんな壁にぶち当たる度に、たくさんの人に支えてもらい乗り越えてきました。陸上で学んだことも多く、ただ走っているだけではなく自分がどういう人間なのか、どれだけ実力があるのか色々試すことが出来る場所なのかなと思います。自分を試す場であり、学びの場でもある自分のすべてが陸上でそれが競技にも、私生活にも出てきていると思っています。

——これからの夢を教えてください。

安：2020年に開催される東京オリンピックに出場し決勝に残り、たくさんの人に注目してもらって子供たちに夢を与えるような憧れの選手になって陸上をもっとメジャーな競技にしていくことです。

——今、夢に向かって頑張っている人へメッセージをお願いします。

安：自分自身も夢があってそれに向かって取り組む中で、一気に夢にはたどり着けないことを知ったので一つひとつ夢のために目標を作って超えて行き叶えていって夢に繋がってほしいなと思います。

## Profile

安部 孝駿 Takatoshi Abe  
1991年11月12日生 192cm 81kg  
岡山県出身/玉野光南高校 卒業/中京大学 卒業  
デサントTC 所属  
2011年 400mH 世界選手権出場  
2013年 400mH 世界選手権出場  
2017年 400mH 日本選手権出場 優勝  
2017年 400mH 世界選手権出場



04  
interview

Rise!  
OKAYAMA MOVE UP NEXTER

セルフケアとプロ  
ケアのバランスを  
大切にしましょう。

原因が分かれば  
歯をいつも以上に  
意識できますね。

医療法人 あかり歯科クリニック

# AKARI DENTAL CLINIC

7月にリニューアルオープンした兎島のあかり歯科  
クリニック。リニューアルに込めた思いと、日頃の歯の  
メンテナンスの重要性について語っていただきました。

BAZ-K (以下、B) : 7月に移転をした『あ  
かり歯科』さんですが、移転を決めたき  
っかけは何だったんでしょうか？

河田有祐 (以下、河) : もともと診療台  
が3~4台の小規模なクリニックだった  
ので、新しい機械を入れたいと思っても  
機械を置くスペースがなかったり、『あ  
かり歯科』が出来てから24年ほど経っ  
て、機械も建物も古くなっていて、建  
物を新しくして機械も最新のものを  
入れて心機一転頑張ろうと思ったのが  
最初のきっかけです。

B : 小規模クリニックのメリットは何だ  
ったのでしょうか？

河 : 患者さんとの距離感ですね。例  
えば、急に歯が痛くなった患者さん  
に、「今からすぐに診てほしい」と言  
われた時に小規模なクリニックだと  
入りやすかったり、気兼ねなく通い  
やすい。また、小規模クリニックへ  
何年も通っている患者さんの口の中  
は見なくても分かるようになってい  
たりとか、一般的な虫歯だったり歯  
が痛いと言った症状だと小規模で  
も十分に対応してくれるので、入  
りやすく通いやすいというのが小  
規模のメリットだと思いますね。

B : 小規模クリニックから中規模のク  
リニックへリニューアルされて、どん  
なメリットが

あったんでしょうか？

河 : 僕が今まで自分なりに大学病  
院だったり小規模なクリニックで勉  
強してきたことが、他の歯科医より  
すごいレベルかという、それはそう  
ではないかもしれないですけど、自  
分なりに勉強してきた、臨床・治  
療というものをできるだけ数多く  
の人に提供してあげたいという思  
いもあり、中規模クリニックのメリ  
ットは、小規模なクリニックでは  
治療するのが難しい患者さん  
を、最新の医療機器を完備して大  
学病院まで行かなくても治療が  
できるということですね。小規模  
クリニックではスペースの問題で  
実現することが出来なかった、最  
新の医療機器を入れたり、高度な  
カメラを入れることを中規模ク  
リニックで実現させることができました。

B : 小規模、中規模、大規模のク  
リニック全てを経験された河田さん  
だからこそ、それぞれの良さが見  
えたということですね。個室化が  
進んでいる中で、あえてリニュー  
アル後もオープンな診察室にされ  
た理由は何だったんでしょうか？

河 : 最近はやっぱりプライバシー  
を守るなどの理由で個室化が進  
んでいるのですが、『あかり歯  
科』のこだわりが、リニューアル  
して外観も綺麗で敷居を高くとい  
うことではなくて、やっぱり患者  
さんと先生の

距離が近くて、気軽に挨拶やコ  
ミュニケーションがとれる親近感  
ということを大切にしています。

B : なるほど。患者さんの気持ちだ  
ったりコミュニケーションを大切  
にされているんですね。続いて、  
歯のメンテナンスについて教  
えてください。

河 : 歯も車と同じように、歯石  
や歯垢などの汚れがどんどん溜  
まってしまうので定期的なメン  
テナンスが必要になります。自  
分で掃除できれば良いのですが、  
やっぱり自分の歯磨きだけでは  
届かない場所もあって、何かを  
食べるから汚れが溜まってい  
くのではなく、寝ている間に勝  
手に口の中はばい菌が溜まっ  
ていくんです。そのばい菌が固  
まったものが歯石なんですけど、  
歯石になってしまうと歯磨き  
では取れなくなるので、歯磨  
きでは磨ききれなかった汚れ  
をメンテナンスで取らなければ  
いけないんです。車で例えると、  
ボンネットはよく見える場所  
なので綺麗に掃除しますよね。  
前歯はよく磨くし、ホワイト  
ニングで綺麗にしたり出来ま  
すが、やっぱり奥歯の後ろ側  
だったりというのは、どうし  
ても工夫しないと届かなか  
ったり、車で言うとタイヤの  
裏側なんかは毎日掃除が出来  
ないので、そういったところ  
をメンテナンスに来た時に  
衛生士さんに取ってもらっ  
たり、磨ききれないところを  
指摘してもらうこともす  
ごく大切です。メンテナンス  
には、セルフケアとプロケア  
というものがあって、それ  
を上手く使い分けてケアし  
なければいけないんです。  
プロに任せてメンテナンス  
すること、自分で意識する  
ことのバランスが大切  
ですね。

けど、原因が分かれば歯をいつも  
以上に意識する理由にはなり  
ますよね。

河 : そうですね。それが、ク  
リニックをリニューアルした理  
由の一つでもあって、メン  
テナンスって痛くもないし、  
自分の歯が綺麗になるとい  
うことなので、やっぱり綺麗  
なところで綺麗になってもら  
いたいと思ったんです。な  
ので、メンテナンスに来  
られる際は、美容院だ  
ったりエステのような感  
覚で、リラックスして  
いただきたい思いから、  
メンテナンスの部屋は  
個室になっています。

B : 最後に、今後の夢を教えてください。

河 : 兎島の人口が約7万人  
いるんですけど、その7万人  
の歯を全て診れるかと言  
われると、それは絶対診  
れないです。ただ、兎島  
7万人みんなの口の中  
が綺麗になってほしい  
なと思うと、僕一人  
では出来ないこと  
なので、兎島の  
歯科医療が発展  
しなければい  
けません。僕が  
今回、ある程度  
の医療機器を  
揃えて、ク  
リニックも  
綺麗にして、  
様々な経験  
をしてここ  
で開業した  
ので、それ  
に影響され  
て周りの  
兎島のク  
リニックが  
発展する  
ことで、  
岡山の  
歯科医療  
が発展し  
ていくとい  
うような、  
起爆剤  
じゃない  
ですけど  
そんなク  
リニック  
になる  
ことが  
夢です。



photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

## Guest

河田有祐 Yusuke Kawata (写真右)  
あかり歯科クリニック理事長/日本歯周病学会認定医

経歴  
2005年 東京歯科大学 卒業  
2005年 徳島大学病院 歯科口腔外科 勤務  
2009年 岡山大学大学院 歯病歯学分野 入学  
医療法人 あかり歯科クリニックに非常勤  
として勤務開始  
2013年 岡山大学大学院 歯病歯学分野 卒業、博士号取得  
2015年 医療法人 あかり歯科クリニック 理事長就任

## Interviewer

BAZ-K (写真左)  
株式会社バズクリエイション代表取締役



医療法人 あかり歯科クリニック

《住所》 〒711-0921 岡山県倉敷市見島駅前1-13-1  
《電話》 086-472-8030  
《HP》 <http://akarishika.com/>

	月	火	水	木	金	土	日
9:30	●	●	●	●	●	●	●
12:30	●	●	●	●	●	●	●
14:00	●	●	●	●	●	●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●
休診日/日曜・祝日							

05  
interview

Rise!  
OKAYAMA MOVE UP ARTIST

——俳優を目指したきっかけはなんですか。

安井秀和（以下、安）：大学を卒業後、岡山で就職したんですけど半年後に仕事の都合で東京に出向になり、それがきっかけで上京しました。岡山では、音楽をやってうまくいかなかったタイミングでやめてしまったんですが、東京で生活しているうちに様々な刺激を音楽時代の先輩に受けました。でも、自分は音楽ではやっていけないと感じていたので何が出来るかと考えて思い立ったのが俳優でした。



役者をやりたいといっても最初から仕事ももらえるわけでもありませんし、まずはアルバイトをしながら事務所を探るところ

からはじまりました。履歴書を片っ端から送り続けたり、飛び込みで行ったりを3か月くらい続けました。最初の事務所に入るきっかけは、Facebookなどで情報を配信をしていたんですけど見てくれたみたいで声をかけていただきました。

——俳優としてはじめてのお仕事はなんですか。

安：“BREVE HEARTS 海猿”という映画のエキストラですね。本格的な映画の撮影現場は初めてで右も左もわからない状況だったんですけど、撮影の雰囲気だとかそういうのは掴むことが出来ました。200人くらいの方がいたので完成した映画を見ても自分がどこに映っているのかわかりませんでした。（笑）

## 俳優

# 安井 秀和

### Profile

安井 秀和 Hidekazu Yasui

1987年8月24日生まれ。  
代表作として『空と海のあいだ』ケンチョウ役、  
『あさひるぼん』高校時代の坂東欽三役、  
ケスの極み乙女MV『心地艶やかに』など。  
【Twitter】@Kazu824Yasu

岡山出身の若手俳優。刺激にあふれた東京の地で実感した俳優のおもしろさとその魅力。そして地元岡山への想いとは。

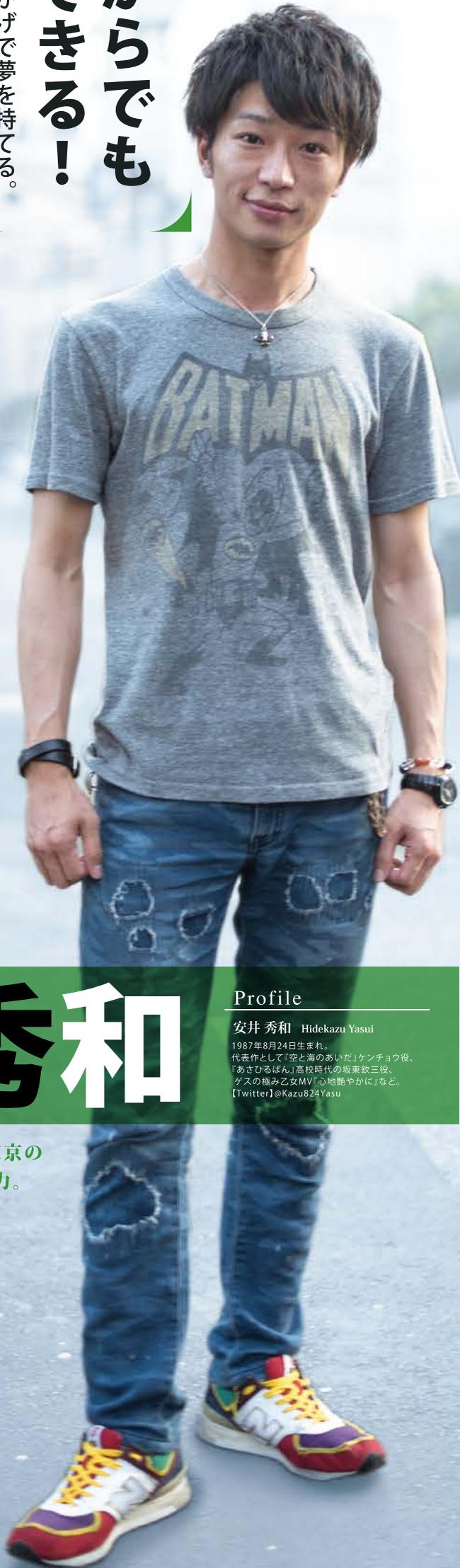
——今までの出演作品で印象に残っている役などありますか。

安：2013年に公開された『あさひるぼん』という映画です。初めて配役をいただいてセリフもありました。撮影は宮崎県でしたんですが、役者付けの生活ですごく充実していました。日々の中でいろん



なことを考えながら生活できて、役者をしているんだけどその空間を与えられていることがとてもありがたいなと思いました。すべてが、初めての事だったので印象に

何歳からでも  
挑戦できる！  
この言葉のおかげで夢を持てる。



は残っています。今でも、撮影でお世話になった宮崎県の方と連絡をとっています。役柄が山寺宏一さん演じる坂東欽三の高校時代の役だったんですけど、“若い頃の役をすごく絆が伝わる様に演じてくれたからやりやすかったよ”と言っていたのでうれしかったですね。

——俳優をしていてよかったこと、やりがいい、魅力など教えてください。

安：カメラの前に立つことが好きで、撮影ではいろんな場所に行けたり、いろんな人に会えたりとその現場で起きる全てのことに良い意味で刺激をもらえます。そういった刺激が魅力であり、やりがいいと思います。俳優をしてまだ長くはないですけど、自分探してみたいな感じですよ。

——俳優をしていて挫折したことや辞めたいと思ったことはありますか。

安：俳優のモチベーションを保つことがすごく難しく、作品にたくさん出演できている訳でもなくてそんな時にプライベートでも良い事が起きなくて何やってるんだろうと考えてしまった時期がありました。オーディションに落ち続けたり、仕事の話がこないとかでモチベーションは下がりましたね。

——今後の夢を教えてください。

安：自分でもどんな演技が映像を通して魅せることが出来るのかまだ分かっていなくて、でも自分なりにおもしろいキャラなのかとか思っています。明るいついよりは静かな中にも秘めたものがあるような、オーラを放てるそんな役者になりたいです。やったことない事にもどんどん挑戦していきたいです。



——夢を持つ読者の方に伝えたいことはありますか。

安：夢を持ったらそれに向かって行動して自分で夢を掴みに行く努力をしてほしいですね。そして、胸を張って地元へ帰れるようになってほしいです。僕も、最後は岡山に帰りたいと思っています。夢がないという方も多いかもしれないんですけど、それってすごくもったいないと思うので実際にやってみることでそれが目標になったりすることもあると思うし、いろんなことに目を向けておもしろそうだなとか、自分が苦手なこと興味がないことでも知ることをしてほしいです。好きなものは好きといえる自分になって可能性を広げていけるといいですね。母の言葉なんですけど“何歳からでも挑戦できる”と言われて僕も俳優を目指そうと思えたので、皆さんにもそう思ってもらいたいです。

——岡山とはどんな所ですか。

安：生まれ育った場所ですし、家族も友達もいるので落ち着ける場所です。上京してから、岡山は山も海もあって食べ物もおいしくて意外といいところだなんて気づきましたね。（笑）

——岡山の読者の方にメッセージをお願いします。

安：岡山で出来ることを企画していきたいですし、出演させていただいた映画『空と海のあいだ』という作品は岡山で上映されていないので上映できるように頑張りたいですし、なにより岡山の皆さんと一緒に楽しいことをしたいです。読んでいただいた皆さんが知って下さり応援して頂けると嬉しいです。

06  
interview

Rise!  
OKAYAMA MOVE UP ARTIST

岡山出身の個性派  
ソロダンスアーティスト

# D\_29 (DAIKI)



岡山出身で東京を拠点に活躍するD\_29さん。  
夢を持ち続けて突き進むアーティストの本音とは。

玉川洋輔 (以下、玉): 音楽を始め  
たきっかけを教えてください。

D\_29 (以下、D): 始めたのは9歳  
ぐらいの時、当時は内気で前に出  
るのが苦手な控えめな子だったらし  
いです。そんな様子を見た祖母が、  
「表に出ることをしてみたらどうか」  
と提案してくれて、そこから歌とダン  
スを始めました。

玉: 今回待望の 2nd single『Bad  
Boy』をリリースされたということで!  
この曲についてお話しを聞かせてくだ  
さい。

D: 元々僕はロックミュージックやダ  
ンスミュージックがすごく好きで、当  
初それをミックスさせたようなジャン  
ルをやりたい。今回は 1st single の  
『Pandemic SHOCK』のダンスミュージ  
ックなノリとは少し違い、『Bad  
Boy』はロックの要素を強めて、  
力強さだったり、インパクトのある  
楽曲になるように新しい試みで制作  
を進めました。

玉: D\_29 さんのレコーディングや PV  
にはこだわりが盛り沢山。2nd single  
『Bad Boy』のどこを聞き、なにを 1  
番感じて欲しいですか?

D: まずは作る時にお客さんやライブ  
を意識して楽曲を作っていて、基本  
的に楽曲だけでなくライブを想定  
して生バンドだったり、いざ目の前  
で見た時にかっこいいと言われてら  
れるような楽曲を作ることを 1 番重  
点において制作しています。だから  
ライブをするために曲を作っている  
ような感じ。今回の『Bad Boy』は  
ただの Bad な悪い男ではなく、ど  
ちらかという自分の信念を貫いて、  
自分の道を突き進んでいくというメ  
ッセージを込めた『Bad Boy』とい  
う意味にしました。今回あまりやっ  
たことがないダンスとロックの融合  
が自分の中で、こだわって作った  
部分ではありますね。

玉: D\_29 さんのライブはファースト  
インパクトがすごく、あまり類を見  
ない音楽で人を惹きつけるものと  
思うのですが、何か意識しているこ  
とはありますか?

D: 当たり前ですが、誰が見ても楽し  
めるようなライブを想定して作って  
います。曲って、例えば聞けば聞く  
ほど味が出るものと、1 回聞いたら  
覚えちゃうインパクトのある曲の 2  
パターンあると思うんですけど、誰  
でも小さい子から大人までこの曲  
ノリがいいな、なんか楽しいなっ  
ていう年齢関係なく耳に残るよう  
なフレーズを意識して作るように  
していますね。最初は short Ver.  
でインパクトを残して、どんな感  
じなんだろうというのを残しつつ  
フル Ver. でしっかり形として残し  
ていけるようにしています。

玉: ステージ上ではクールな D\_29  
さん。普段のプライベートでの趣味  
等あれば教えてください。

より強い自分を見てももらいたい!



ステージでは弱い自分ではなく、

D: そうですね (笑) 元々筋トレが好き  
でジムに行ったりすることもあるん  
ですけど、やっぱり自然に触れ合うこ  
とが大好きですね。動物がすごく好  
きなため休みの日には動物園に遊び  
に行ったりしています。1人でふらっ  
と行くこともありますし、公園で夕日  
を見に行ったりもしていますね。ライ  
ブも作品も、良いものを残すために常  
に本気です。いつでも力を出し切っ  
ているので、休日は放心状態になる  
ことも (笑) だからそういった癒しの  
時間も大切にしています。

玉: これから D\_29 さんのギャップを  
知っていただければ、ファンのみな  
さんにもっとのめり込んでいって  
ほしいですね。

D: 割と僕はコンプレックスが多くて、  
結構自分に自信がなかったり、なか  
なか自分を好きになれないことがあ  
るので、自分をより好きになって自  
信を持つためにステージに立って音  
楽をやっています。楽曲はパンチの  
ある弱い自分をぶっ倒す勢いでやっ  
ています。だから音楽をやっている  
ギャップがあるってこういうことなん  
だろうなと思います。ライブ前も、1  
時間は絶対にスタジオに入って体  
を温めます。ステージに立つのはや  
はり緊張もするし怖い。でもそう  
いった弱い自分ではなく、より強い  
自分を見てもらいたいと思っています。  
それがギャップという形にとられる  
のだと思います (笑)

玉: D\_29 さんにとって音楽とは、夢  
とは何ですか?

D: 夢は生きる原動力ですね。僕は  
常に夢を抱くようにしています。1つ  
はメジャーデビューするという夢が  
ありました。だけどそれで満足した  
くない。僕はとにかく攻め続けて  
いきたいんです。そして攻め続け  
ていくためには夢を持つことが大切  
だと思っています。夢は攻め続ける  
ために必要な原動力であり、音  
楽は生き様だと僕は思っています。

玉: 夢を抱いている若い人たちにメ  
ッセージをお願いします。

D: 僕は夢を持つ上で大切にしてい  
ることがあって、まず自分に嘘をつ  
かないということ。妥協しちゃうこ  
もあると思うんですけど、弱い自分  
が出てもう無理だよと思うことも、  
本当はこうしたいという気持ちも  
僕は大切にしています。あとは夢  
を追い続けるためには “No pain,  
No gain” だと思っ  
ています。何かを得るには何かを犠  
牲にしないといけないこともある  
と思うので、なくなっていく辛さ  
もあるけど手にする喜びもあるので、  
僕は一生自分に嘘をつかず夢を持  
ち続けて、とにかくダウンしても必  
ず立つという気持ちでやっています。

玉: 音楽に対して熱い気持ちが伝わ  
てきました。ありがとうございました!!

## Guest

D\_29 DAIKI (写真上) ソロダンスアーティスト

2015年4月29日に「DAIKI」としてインディーズデビュー。インストアLIVEは1店舗売り上げ枚数1500枚に昇りiTunesでは5位にランクインし注目を集めた。その後2015年11月25日「D\_29(DAIKI)」としてメジャーデビューを果たし現在人気急増中!活動はLIVEに重点を置き岡山・東京を中心に全国各地でLIVE活動を行っている。



## Interviewer

玉川 洋輔 (写真下) シンガーソングライター

1stシングル「雨」発売中!二重と驚がれない首を思い絞けるもう叫びたいとわかっていても、傷くも切ない極上のバラードソング。



facebook・Twitter・Instagram: 玉川洋輔で検索

撮影: Ryo Oonishi  
Instagram: @ryo\_photography



## 岡山を被害者も加害者もゼロの県にしたい!!

岡山商科大学3回生 山地 美紅

### 被害者支援サークル つぼみ

#### 『つぼみ』の活動内容

私たちは、主に県内外で行われる『遺族講演』への参加、『犯罪被害者支援フォーラム』の運営補助などを行なっている岡山商科大学のサークルです。遺族講演後には、ビデオレターや色紙で自分たちが感じたことやこれからの活動目的などを遺族の方に直接伝

えています。その他にも、1年間を通して活動してきたことをパワーポイントにまとめ、『犯罪被害者支援フォーラム』で発表しています。私たち“大学生”にしかできない社会に被害者支援について広める活動を行なっています。

#### 『つぼみ』の魅力

私たちは、警察の方のような直接的な支援ができるわけではないのですが、“大学生が被害者支援活動をしていると知り、生きる希望が持てた”と言っていたことがあって、私たちの活動が本当の意味

で被害者支援となっていると実感することができました。その言葉をかけていただいた時、本当に嬉しかったので、自分たちの活動が誰かのためになっている喜びを感じられることがこの活動の魅力です。

#### 岡山を元気にするために!

岡山は交通マナーが悪いので、いろいろな方に講演に参加していただき、岡山の交通マナーが良くなるような活動を行なっていきたいです。

私は警察官を目指しているので、岡山を被害者も加害者も作らないところにして岡山がもっと良い場所になるようにしていきたいです。

# 学生から岡山を元気に!!



OKAYAMA MOVE UP学生チームが岡山県内で活動する学生団体にスポットをあてて紹介していきます。



## フリーペーパーに出よう!!

インタビューにご協力いただける学生団体、サークル募集中!

#### 《応募方法》

OKAYAMA MOVE UP公式Facebookメッセージまたは、OKAYAMA MOVE UP公式Twitterダイレクトメッセージより下記必要事項を明記の上、お気軽にご応募ください。

《1》代表者名 《2》団体名 《3》電話番号 《4》学校名

- ※あくまでボランティア活動です。
- ※個人情報に関しては、活動以外の目的には一切使用いたしません。
- ※岡山県出身または在学中の大学生、短大生、専門学生の方のみとさせていただきます。



岡山県内の学生団体活動情報や学生が主催するイベント情報を随時配信予定!!その他にも、OKAYAMA MOVE UPの情報も配信していきます!!

#### 『WASAO』の魅力

スポットの運営やイベント企画など、学生の自分たちだけで幅広く活動しているところが魅力だと思っています。政治離れが叫ばれている若い世代で、自分たちの事としていかに“政治”というものを身近に感じていけるようにするには

どうしていけばいいかということを試行錯誤しながら活動に取り組んでいます。18歳選挙権となり、若い世代の街への参画をより求められるようになった中で、街のことに参画していける仕組み作りの手助けになればと思っています。

#### 岡山を元気にするために!

中高生や大学生から岡山を元気にしていきたいという想いがあるので、若い世代が岡山を知り、岡山の魅力を多くの人に伝えて

いける、あるいは街のことを一人一人が考えていける、そうした“場づくり”の役割を『WASAO SPOT』が担っていただけたいと思います。

### 若者の参画する街岡山 WASAO

#### 『WASAO』の活動内容

『WASAO』は、NPO法人『YouthCreate』の岡山での事業として“若者と政治とつなぐ”活動をしています。今の主な活動内容は、中高生が気軽に街や政治に触れられるフリースペース『WASAO SPOT』(以下、スポット)の運営、イベントの企画を岡山市との協働事業として行っています。

中高生の多くが難しいと感じる“政治”のイメージを気軽なものにしていくために、ポスターでの仕掛けや大学生運営メンバーからの声かけ、フリードリンクサービスやwifi利用可能サービスなどで中高生が使いやすい場づくりなどで今後も様々な工夫をしていきたいと思っています。

## 若い世代にも政治に興味を持って身近に感じてほしい!!

岡山大学大学院 谷脇 理史



#### \* WASAO SPOT INFORMATION \*

OPEN 毎週木曜日 (16:00~21:00)

毎週土曜日 (10:00~15:00)

住所:SGSG(岡山市北区奉還町3丁目1-30)

夢の課外授業『中学生 Rising Sun Project』が今年も始まりました！ 2011年に起こった東日本大震災後から6年、「日本を元気に」をテーマに始まったこのProjectも今まで約2000人の子供たちと『Rising Sun』を一緒に踊ってきましたが、Projectが終わった後も街のお祭りやイベントなどで、その地域のみなさんの前で継続してDANCEを披露していることなどを後から聞くと本当に感動します。これをさらに続けていけば、いつの日か「10万人 Rising Sun」も夢ではないのかな？なんて本気で思っています!!!

今年は宮城県の七ヶ浜中学校と向洋中学校の2校で始まりました！ 1日で2校を訪問してレッスンするのは今年初めての試みでしたが、学生の皆さん、先生方、父兄の皆さん、地域の皆さんが温かく迎え入れてくれて、終始笑顔の絶えない時間になりました↓

体育館の独特な匂いと夏の蒸し暑さになんとか懐かしさを感じながら、EXダンス体操から始まり、『Rising Sun』のイントロから最初のサビの1番象徴的で1番難しいステップのレッスンをしましたが、なんとかできてる子もいれば苦戦している子もいて、改めてこのステップは、やるのも教えるのも難しいなあと思いました(笑)。ここから約3カ月間みっちり練習してもらって発表会となるのですが、最後はみんな笑顔で踊りきることを期待したいと思います。

レッスンが終わると、お返しに校歌を歌ってくれたり出し物を披露してくれたり、質問タイムで話をしたりして交流するとやっぱり来てよかったなあとと思います！

震災からもう約6年もの月日は経ちましたが、まだまだ復興していない場所や心の傷はいまだに多く感じます。DANCEの力、音楽の力を信じて、引き続き一つでも多くの土地へ行き、一人でも多くの人と一緒に、このプロジェクトを通じて『Rising Sun』を踊っていきたいと思いますので、どうか応援よろしくお願い致します。

さて、いよいよ暑くて最高の夏が始まりました！今年の夏は、なんか夏らしいことしたいですね!! 海にだけはどうしても行ってやろうと画策しておりますが、行けるかな(笑)? 皆さん遊びに夢中になってしまいがちですが、熱中症など体調には十分注意してくださいね。

夏といえばお台場で毎年開催している「居酒屋えぐざいるPARK」が今年も盛り上がっています↓ 皆さんもう行かれましたか? メンバープロデュースメニューやAMAZING COFFEEなど皆さんが最高の夏の思い出になるようにさまざまな”おもてなし”をご用意してお持ちしておりますので遊びに来てくれたらうれしいです。僕も先日、ご飯を食べにいきましたが、毎年楽しみにしているEXILE SHOKICHIのラムチョップが今年はパワーアップしていてめっちゃ美味しかったです

し(笑)、また皆さんと乾杯しに行こうと思いますのでその時は一緒に飲みましょう↓

そして先日、EXILE THE SECONDは今年初めての夏フェスに出演させていただきました。フェスに出ると夏が来たなあと感じますが、これからどんどん出演していこうと思っていますし、自分ももう一つのグループであるDANCE EARTH PARTYでも夏フェス出演を予定しています。

まだ一度もパフォーマンスしていない楽曲などを用意して、最高に楽しんでいただけるように盛り上げにいきたいと思っていますので、ぜひタオルと飲みものを持って弾けに来てくれたらうれしいです。

10月には『DANCE EARTH FESTIVAL 2017』が幕張で控えていますし、その後にはEXILE THE SECONDの全国アリーナツアーも始まります!

2017年下半年もノンストップで皆さんに会える機会がたくさんあるので最高に楽しんでいきましょう!!!

(TOKYO HEADLINE vol.695 2017.7.24 発行号より)



19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日にEXILE新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILEとしても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊EXILEにて、自身が所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所』の連載を開始する。2013年、眠りのof the year 2013「ベストネムリスト」の受賞を果たす。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月にEXILE USAが活動を行っているDANCE EARTH PARTYの正式メンバーに選ばれる。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

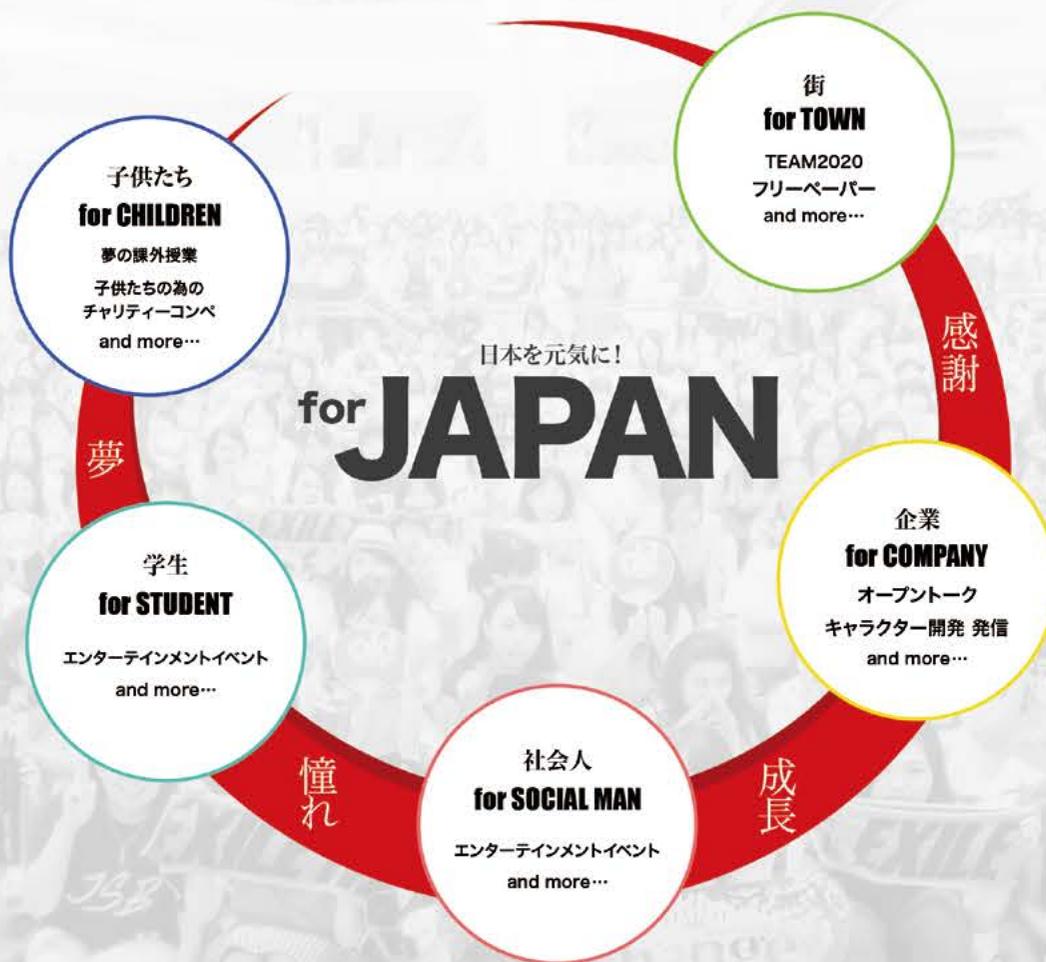
# OKAYAMA MOVE UP

## 岡山から日本を元気に!

「岡山を元気に!」「岡山から日本を元気に!」をコンセプトに、フリーペーパーOKAYAMA MOVE UPの発行をはじめとし、各種イベントを実施するなどエンターテインメントを中心に岡山を盛り上げる活動を行っています。  
この活動が意義あるものとして皆様方によりご賛同頂けるよう、「岡山県民が元気になる」「岡山県民が岡山を好きになる」「他府県の方々が岡山の良さを知ってもらう」事を目的としています。

「日本を元気にする為に、まずは岡山が元気になるう!」

その為に何が必要か?子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける...それが企業を街を発展させ、岡山を元気にしていく事だと確信します。  
さらに TOKYO MOVE UP との連携による中央とのネットワークを生かしたコンテンツを創造し、若年層への「認知の拡大と巻き込み」を実現します。  
また地方創生のモデルのひとつとして「社会的活動」と「エンターテインメント」、「スポーツ」の融合による岡山を元気にするプロジェクト、それが OKAYAMA MOVE UP です。



### OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧 (2017年8月11日現在)

TYPEX co.,ltd. VERTICE Lee GROUP 「動くに笑顔を!」株式会社 石井事務機センター

KIRIN

株式会社 安田商事運輸

SAITO PRINTING CO., LTD.

株式会社エムシーエム

株式会社 祥

株式会社DMM.com

アシード株式会社

special partner

Coca-Cola West

イオンモール岡山

54 JAPAN MOVE UP WEST

# OKAYAMA MOVE UP

隔月誌【オカヤマ ムーブアップ】 2017年8月11日発行 vol.27 AUGUST

- 発行人／源 眞典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
- 発行所／株式会社HEADLINE WEST  
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
- 編集・製作／株式会社ヘッドライン  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6/VILピソソ3 403号

